

歴史的資産とユニバーサルデザイン

～日本文化に誰もが触れられる環境づくりを目指して～

戦後、経済性や効率性を目指して画一的なまちづくりが進められた我が国では、近年、地域の活性化に向けて地域固有の風土や景観を活かしていくことが重要であると気づき、歴史的資産に着目して取り組む地域が増えてきている。その目的は、周辺住民の交流や国内外の集客を目指したものなど様々であろうが、一早く少子高齢社会の進展に着目し、誰もが訪れやすい地域づくりに向けてユニバーサルデザインの考え方を導入した事例が出てきている。歴史的資産は、日本文化に直接触れることのできる大事な資産であり、ここで幾つかの事例を紹介したい。

歴史的資産とユニバーサルデザイン

我が国では、地域固有の歴史や風土を活かしたまちづくりに向けて、二〇〇四年の景観法の制定、二〇〇八年の歴史まちづくり法と仕組みが整えられている。また、二〇〇八年の観光庁設置後、国の風土を活かした観光立国が成長戦略の柱の一つに位置づけられるなど、国をあげて観光への取り組みが推進されている。一方、ユニバーサルデザインについては、現行のバリアフリー法が二〇〇六年に制定され、二〇一一年三月の一部改正により、二〇二〇年度までの各施設の整備目標が定められている。

このように、国では着々と制度が整ってきているが、現段階では歴史的資産を活かしたまちづくりと、ユニバーサルデザインに着目したまちづくりは別々に進められている。国内の地域をみても、両方の視点で取組んでいる事例は少ない。その理由として、伝統的な匠や景観を活かしながら、移動経路の確保やトイレの設置等を行うには費用もかかるし、知識と経験が必要であることも考えられる。今後、人口減少、少子・高齢社会、訪日外国人の増加がますます進む我が国では、様々な人々が訪れやすいということを受け入れる施設側や地域側がアピールしていくことが必要になってくると考えられる。そのことに一早く気づき、歴史的資産にユニバーサルデザインの考え方を



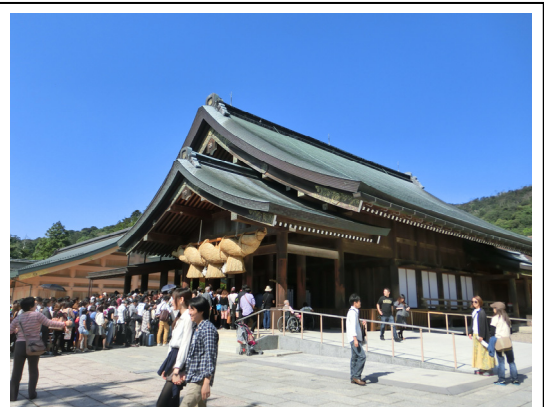
高山市街地の商店街の一角にある「かなかかん」

を導入した事例が少しずつ出てきている。ここではそうした事例を紹介してきた。

高山の「バリアフリー観光」

歴史的資産を活かしたまちづくりに早くからユニバーサルデザインの考え方を取り入れているのは、国内では岐阜県高山市であろう。小京都の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、年間約三〇四万人が訪れるこの町では、近年は外国人観光客も多く訪れる。「住みよい町は行きよい町」としての福祉観光都市づくりを掲げ、ハード面の整備とともに、社会的、制度的、精神的バリアの除去を目的とした「バリアフリー観光」を進めている。高山を訪れたことがある人であれば気づくであろうが、市街地では道路の段差解消や視覚障害者のための誘導ブロックの設置が進み、車いす利用者用トイレや多目的トイレ(多機能トイレ)が市街地の至る所にある。これらは誰にとっても訪れやすい環境となり、京都と十分肩を並べる程よく町並みが残る高山が外国人にも受けているのがうなずける。

高山市街地からは、商店街の一角に「まちひと・ぶら座・かなかかん」という拠点を紹介したい。商店街のまちづくりでご存知の方もいると思うが、商店街の人々を中心に市民が運営しているまちづくり拠点である。ここでは電動カー・ベビーカーの貸し出しの他、一時保育も行



出雲大社の拝殿
スロープが設置されている

っている。昨年、東京オリンピック招致で流行った「おもてなし」の精神が、こういったところから垣間見える。

出雲大社のユニバーサルデザイン

昨年は、出雲大社の六十年ぶりの大遷宮と、伊勢神宮の二十年ぶりの式年遷宮が同年に行われたこともあり、どちらもマスコミや観光ツアーでも盛んに取り上げられた。たまたま出雲大社を訪れる機会があり、その様子を紹介したい。

境内は昔からの社殿の造り、砂利敷きの境内、一部に急な坂などはあるが、参道の横に迂回路が設けられるなど、車いすやベビーカーで巡ることができ。本殿には階段があるが、拝殿にはスロープが設置されて参拝できる。

アクセシビリティについては、県庁所在地である松江市から一畑電車で出雲大社前駅に行くと出雲大社に近く、比較的バリアフリーな経路で移動することができる。自動車の場合は、出雲大社の隣の県立古代出雲歴史博物館に身障者用駐車場があり、駅からよりもさらに近道となる。この駐車場から参道横の迂回路に出られる。我が国を代表する神社でここまでユニバーサルデザインに取り組まれているのは、現在ではまだ少ないと思われる。

名古屋でも(名古屋城、市政資料館)

一方、名古屋に目を移すと、名古屋城、



出雲大社境内の迂回路
参道は砂利敷きだが、参道の脇に迂回路が設けられ、車いすやベビーカーでも通りやすくなっている

名古屋市政資料館ともエレベーターが備わっている。名古屋城の場合、ホームページのガイドマップで多目的トイレの位置が表示されているが、残念ながら天守閣のエレベーターは表示されていない。せっかくの設備なので、一日も早く公式ホームページで紹介されることを期待したい。

日本文化に誰もが触れられる環境づくり

以上、歴史的資産とユニバーサルデザインについて事例を紹介してきた。冒頭で述べたように、国内では様々な理由により歴史的資産のユニバーサルデザイン化は進んでいないが、これらの資産は日本文化を直接肌で感じられるものであり、誰もが触れられる環境づくりに向けて、ユニバーサルデザイン化が今後ますます進展していくことを期待したい。



国重要文化財の名古屋市政資料館
左上写真のように車いす使用者用の呼出ボタンがあり、エレベーターで中を移動可能



名古屋城
屋外と天守閣内のエレベーターを乗り継ぎ天守閣の5階まで移動可能